

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4490100064
法人名	医療法人 泰山会
事業所名	グループホームみよしファミリー園
訪問調査日	平成19年11月22日
評価確定日	平成20年 1月15日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4490100064
法人名	医療法人 泰山会
事業所名	グループホームみよしファミリー園
所在地	大分市大字葛木字長溝872番地 (電話)097-523-5500

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年 1月15日

## 【情報提供票より】(平成19年11月7日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成19年1月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	65 円
	または1日当たり		円	

## (4)利用者の概要(11月7日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	74 歳	最高	91 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	三好医院 村上歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 重度化や終末期に向けた取り組みとして、早期の段階で家族に急変時・入院時・終末期の意向を確認している。ボディケア・メンタルケア・家族への対応方法などを具体的に文書化しており、利用者や家族が安心してサービスが受けられるような仕組みとなっている。
2. 職員の人材育成として、多くの研修会に交替で参加をしている。また、研修委員を決め、ホーム内の研修にも積極的に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回は初めての外部評価受審である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員一人ひとりが自己評価を行い改善に向けて、改善シートを作成をしサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、定期的に地域住民・ボランティア・家族などの参加を得て開催している。会議では、グループホームの取り組みや暮らしぶりを報告し、家族などの意見を聞き、運営に反映している。また、地域住民より、行事の情報を得て、住民の一員として参加している。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族には、2ヶ月に1回ホームだよりを通じて、行事や金銭管理の報告、また、一人ひとりに対して一口メモとして報告をしている。家族の会(年に2回)との交流会やケアプランの説明会に於いて意見を聞き運営への反映に努めている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の方々とのふれあいの機会を持つために、毎日、朝夕、約半数の利用者が散歩に出かけている。また、地域住民のバザーには、利用者の作品を展示し「グループホームみよしバザー」を開き、地域の方々との交流を深めている。さらに地区の清掃活動には、利用者及び職員が参加し、地元の中学校の体験学習会やふれあい研修を積極的に受け入れている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は地域密着型サービスの意義を理解し、全職員の意見を聞いて作りあげている。(理念は家庭的な環境・残存能力を生かす・尊厳・安全・楽しみ)		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示しているが、開設して日も浅いため、日々の取り組みには至っていない。	○	理念をさらに具体化したい意向があるので、今後、職員一人ひとりが理念を共有し、実践に向けて日々の生活に活かしていくことが期待される。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の盆踊りに参加したり、地域のバザーに絵画を展示している。また、地区の清掃に利用者や職員が交代で参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は初めての受審であるが、職員全員で自己評価票をもとに改善シートを作成し、実践に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の方々やボランティア・家族等の参加がある。会議の中では、グループホームの暮らしぶりを報告したり、行事の情報を得て参加するなどサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課には書類の疑問点などは聞いているが市の職員との行き来は少ない。	○	認知症ケアの専門的な知識を必要とする「キャラバンメイト」の有資格者もいるので、市と連携をとりながら、認知症ケアの拠点となっていく事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホームだより」を2ヶ月に1回、定期的に作成している。金銭の明細書と一緒に、行事の報告や一人ひとり一言メモとして日々の暮らしぶりを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、運営推進会議やケアプランの説明時、また、年に2回開催の家族会で意見を出してもらい運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はないのでダメージは見られない。今後も異動は最小限に抑えるよう努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会には多くの職員が交替で参加している。また、自主的に研修会に参加し報告している。ホーム内で研修委員を決め、人材の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設して間もないため、同業者との交流はない。	○	先駆的な取り組みをしている同業者を訪問したい意向があることから事業所同志のネットワークづくりや交流等を通じてサービスの質を向上させる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始せず、利用者には事前に見学を4日間くり返し、馴染みの関係を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はお料理を教えてもらったり、昔のしきたりを尋ねたり等互いに支え合う関係であり、喜怒哀楽を共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にしているが、外出の希望があっても人員配置で希望が叶えられないのが現状である。	○	一人ひとりの思いや希望をコミュニケーションや仕草を通じて把握し、また、意思表示の困難な方は、家族や職員と話し合いの場をもち、本人の思いを把握することが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医療関係者を含めた話し合いの場をもち、具体的な介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個人ファイルが介護計画に沿って記載されていないため、定期的な見直しができにくい状態である。	○	介護計画の実践状況を把握し、期間が終了する前に状況の変化があれば評価をしながら見直していくことが大切である。また、個々の記録は日々の暮らしぶりも大切であるが評価や見直しができやすくなる介護計画書に沿った記録などの工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望により、毎週、土曜・日曜日の外泊支援・通院の介助や市役所の手続きなど柔軟な対応を行っている。		
。					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の受診や眼科・歯科受診の支援を行っている。また、法人として医療面でのバックアップがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書の中に重度化した場合や終末ケアに対して具体的な確認の文書を作成している。急性期時や入院時・終末期の対応、さらに終末期において、ボディ面・メンタル面・家族に対する支援のあり方を具体的に記している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に人権の尊厳を掲げ、個々の誇りやプライバシーを大切にされたケアを実践に繋げている。特に新人研修の中でも説明している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、その人らしい生活を支援している。しかし、時には職員側の都合で希望に浴えない状況がみられる。	○	夜間入浴を希望している利用者が2名あり、今後、職員間で検討したい意向である。できるだけ職員側のきまりごとや都合を優先することなく、その人らしい生活の支援を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に献立を聞き、ユニット毎に3食を作っている。利用者と職員と一緒に食事をとり、和気あいあいとした雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、だいたい午後2時から5時までとなっている。入浴のアンケートでは、2名が夜間入浴を希望している。	○	2名の夜間入浴の希望者に対し、勤務時間の見直しを検討したい意向であるので、今後の対応に期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	きれい好きな男性が環境整備という役割をもって生き生きと生活を送っている。しかし、出番や役割をもっている利用者は、少数である。	○	一人ひとりの生活歴やできることの力を把握して、さりげなく、活動を触発する道具を置くなどの工夫が望まれる。できるだけ一人ひとりが出番や役割をもち、張り合いや喜びを見出せる支援を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の半数が20分から30分ぐらい日常的に外出して、身体機能の低下の予防に努めている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	環境に慣れない方や不穏状態の方に対して、職員が目につきにくい場所は施錠をしている。	○	鍵をかけることを常態化せず、不穏に対しての原因やその日の言動をキャッチし、記録して分析することにより、ケアの糸口を見つける努力を行い、職員一人ひとりが施錠の弊害を理解し、安全面を配慮した自由な生活が送れるような支援を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルは作成しているものの、利用者を含めた訓練は行っていない。地域住民の協力が得られる働きかけはなく、食料や水などの備蓄もない。	○	災害に対して利用者を含めた避難訓練が求められ、備蓄も検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量を把握し病状の管理に努めている。また、献立に対して法人内の管理栄養士の指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間などのハード面は利用者本位に整備されている。しかし、家庭的な雰囲気や装飾や掲示物がなく、生活感や季節感への配慮も少ない。	○	季節感のあるものや、使い慣れた生活感のある家庭的な雰囲気が漂う共用空間の工夫が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが使い慣れた品を置き、居心地の良ように女性の居室には鏡台や好みの家具も置いている。男性の居室には、職歴や生き方への配慮がある。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	医療法人泰山会 グループホームみよしファミリー園
(ユニット名)	桜ユニット・楓ユニット
所在地 (県・市町村名)	大分県大分市大字葛木字長溝872番地
記入者名 (管理者)	園田 ひとみ
記入日	平成 19年 11月 7日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創立当初は、事業所側の理念だったが職員が皆で意見を出し合い決めた。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に掲示し、常に心がけている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族にも理解しやすい言葉で、目に止まる場所に掲示している。	<input type="checkbox"/> 地域に関しての理解を得る為に、回覧等に積極的に掲示していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤・退勤時、入居者との散歩時に笑顔で挨拶するよう心がけている。また、地域の清掃にも参加している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の盆供養祭に、入居者・職員が参加し、バザー出店に成功した。また中学生の職場体験や触れ合い研修等を、積極的に受け入れている。二ヶ月に一度の地域清掃には、入居者数名と職員交代で共に参加している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	創立一年未満でそこまでいっていないのが現状である。		運営推進会議等で、参考になるような事柄を活発に出してもらい出来る事から取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	はじめての自己評価となる職員も多くまだ理解が不十分な所があるが、職員一丸となって現在取り組んでいる。		管理者をはじめ、経験者は職員の意識向上の為ミーティング等を利用し十分な説明を行ないたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々や、利用者家族の参加による会議ではまずGHの運営や日常の暮らしぶりを報告し、地域の行事等参加を具体的に決めた。外部評価においては、初めてのことで説明と取り組みの内容について概要を報告した。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課と常に不明な点や、疑問に思うことは連絡を取り、意見を聞いたり、アドバイスも受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に行った者の報告や資料を回覧し共有して、必要な方や問い合わせがあった方には説明やパンフレットをさしあげている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待には特に気をつけて職員の何気ない一言に気に病んだりしないようにお互い職員同士気をつけている。また話し合える機会を持つためにミーティングとうで発言しやすい雰囲気作りをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には説明を十分行なっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>受付ノートを玄関に設置しているが、記入が見られないので面会時や家族交流会時の面談の際に話をするようにしている。要望等は比較的でやすいのでケアプランに反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に写真等掲載したお便りのなかに、行事での様子、健康状態を担当者からのメッセージを通じておしらせしている。また金銭管理に関しては現金出納簿の明細を請求書に添付して送付している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や職員にはあわせる機会はあるが、外部にかんしてはそういう機関があるという説明で終わっている。</p>	<p>○ どういう方法があるのか調べて検討していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度のミーティングにて機会をつくっている。全ては反映させていないが出来るだけ近づけている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ミーティング等で調整の相談等努力しているが、まだ満足できる人員ではないので働きかけていきたい。</p>	<p>○ 只今勤務形態について検討中で試す段階にあります。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>まだ一年未満で馴染みまでいく職員の移動はなくダメージはない様子。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修については、機会や案内があれば適した人材に行ってもらっている。内部においては研修委員を最近設置し、研修したい内容や題材を取り上げている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現場にそこまでの余裕がない現状でこれから取り組みたいとかがえている。</p>	○
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者が間に入り、要望を運営者に伝えるという方法で現在対応しているが、全て解決される現状ではない。</p>	○ 管理者が休憩スペース確保の工夫や悩み等の相談に応じることの出来るようミーティングを充実させていきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人員配置や言葉掛け等、慰労会を開いたりと努力している。</p>	○ 現場に長く滞在しないので、職員の勤務状態や仕事内容について詳しく把握することが難しいので管理者が伝えていく努力をしていかなければならない。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いと反対のことが多い中で、本人の思いを理解し傾聴することによって心を開いてもらい、選択してもらえるように努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いを良く聴き、本人への働きかけの方法を一緒に考えてもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	選択肢があることを伝え、本人と家族にとって最良の方法を一緒に考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の開始は、必ず家族や本人と相談・合意の上で始めているが、中には本人の合意がもらえない場合がある。その際は、なじみの家具や小物等で工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理のことや昔のしきたりなことなど、尋ねたり教えてもらったりしながら支えあう姿勢をもって接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に面会時や来訪時には声掛けを行いなんでも話しかけやすい雰囲気をつくり、相談や話しやすい状況にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の気持ちを尊重しながら家族の思いを伝えたり、サポートしたりして心に余裕を持てるよう相談にのりながら良い関係に結びつける支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人には来訪しやすい状況に持っていけるよう努めているが、場所においては対応できる範囲外のことが多くなかなか思うように行かないのが現実です。	○	家族からのデータも不足しているが、なかなか本人からのお話のなかからも聞き出せていないので情報入手の努力が必要だとかんがえています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係はほとんど把握しているが、とくに女性同士のトラブルも多く食事のテーブルや散歩の声掛け等考慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されて退所された方がいますが、いつでも相談に乗れますと尋ねて報告している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話はよく聞き対応しているが、外出援助の面で、頻回の対応が職員の人数で実現しにくい状態である。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族のデータが思ったより少なく、把握に困っている状態です。日々の生活の中で本人の口からの情報で少しずつ分かってきているところです。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	行動の中にある表情や目のかがやきをてがかりに把握し能動的に暮らせるよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフや医療関係スタッフでは、話し合う機会がよくあるが、家族とはよくできる家族はいるが、面会にもあまり来ない家族にたいしての働きかけが難しい現状です。	○	定期的に便りを発行し、情報を提供し少しでも家族に感心を持ってもらえるように働きかけをしていこうと考えている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なケアカンファに加えて緊急カンファも行い柔軟な対応をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	きずきノートや申し送りノートによりタイムリーな対応と、経過記録による流れによる情報で見直しに努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間対応を生かして本人の状況を見ることができるので、生活の要望を調整することによって良い方向に支援できている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	当園の最大のテーマである自由な外出の支援について考えている最中で色々な方々の協力を頼みたいが方法がみつかられず模索しています。	○	回りへの働きかけには、家族の同意やスタッフの人員配置について再度検討していかなければ、自由で安全な外出実現できないので方法を見つける努力をしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護サービスは受けられないが、ボランティアや地域のケアマネジャーに働きかける努力はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	園の中での生活が主で外への働きかけは、地域行事ぐらいしか実現できてない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療面では、母体の病院が全面的にバックアップしてくれているので安心して業務につける。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医には母体の病院を通じて提携されているようだが、スタッフが直接相談できるシステムではない。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に3回～4回ナース長が訪問し、気軽に相談できる状況である。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人や家族の意向を重視し、相談しながら対応している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の際に十分説明している。また入院したりしたときにも家族から相談や質問があったときは、対応している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	比較的経度なかたの入所状況で、具体的にはつめていないが、医療チームと連携できる環境はある。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現実にはあまりないが、対応できる体制はある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	十分配慮していけるよう努めている。スタッフの指導もその都度している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	まずは小さな選択からはじめています。朝の更衣選びや、おやつ、飲み物の選択など雰囲気作りから始めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り支援しているが、職員の人員の都合で仕方ない状況の時もある。	○ 勤務時間の見直しによって夜間入浴も可能になるよう努力している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在理容・美容は希望者は地域の店に出かけている。家族といきたい方は家族と行かれている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを考える際、利用者に尋ね、希望のもの全て取り入れていないが、何個か取り入れている。嫌いなものや食べられないものは、代用メニューで対応している。一人を除いてあまり要望がないのが実情です。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	医療的に禁止されている方が多く、おやつや果物で補う努力はしている。ノンアルコールのものや、屋外での喫煙で対応している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的に検討している。不快感や皮膚疾患に結びつかないよう努力している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めていないが、時間は14時から17時くらいまでと大体の幅で設定している。アンケートで夜間入浴したい人は二人という結果。	○	二人の夜間入浴希望に向けて勤務時間の変更を検討している。次回ミーティングにて決定される。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間は設けていないが、自然とペースが出来て、テレビは21時から22時くらいまで、朝は朝食までに起床・就寝されるようだ。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の希望により支援はしているが、まだ引き出すところまで行っていない現状である。	○	ちよいレクや色んな事への
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力に応じて買い物の際持参される方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝や夕方の散歩には対応しているが、自由な外出について検討中の段階です。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	現在家族のちからを借りて支援している。本人から希望があった時は家族に伝えお願いして気持ちを重視している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけやすい、受けやすい雰囲気づくりは支援している。	○	絵手紙などのボランティアをお願いして定期的に家族や知人に便りを送れるよう支援したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している			
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	大体の例は挙げて説明や取り組みはしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入所初期や不穏時は目に付かない箇所は鍵を掛けている状態です。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食事やおやつ、入浴、トイレとうに現れないときは居室に声掛けするようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に応じて物品の持込を把握している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し取り組んでいるものもあるが、まだのものもあるので、検討している。	○	行方不明時の地域への働きかけや、資料を作り対応したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行なっていないが、ミーティング時に実演しながら行なっている。	○	内外の講習機会を設け全ての職員があわてることの無いよう指導して行きたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時のマニュアルはあり、園内実技講習もしたが入居者を含めての避難訓練はしていない。地域に関しては災害時の集合場所は聞いているが、顔写真などはまだ公開していない。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	安全面も考慮した対策や道具を使い多方面の対応を心がけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	月に一回のカンファレンスに加え、緊急カンファを開催して対応や対策を検討する機会をつくっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のセットは全職員で交代制でしており処方箋にも目をとるしながらセットするので理解している。新しい薬が処方された時は特に注意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ラジオ体操や嚥下体操を毎日している。また便秘症の方には歩行運動や腹部マッサージを声掛けし実行している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けや介助の必要な方に実行している。就寝前は特に気をつけて薬剤洗浄する方の処理を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌には記入欄があり食事摂取量は把握できる。水分量は排尿量が少ない時に摂取量を記入するようにしている。糖尿病患者に関してはおやつや食事に気をつけて別メニューになることもある。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	衛生管理委員を設置し、講習やマニュアル等で知識を習得している。また、講習を受けた時はミーティングで発表し実技指導も実行している。	○	園内研修の充実の為に時間を捻出する努力が必要と感じた。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗い、食器の完全乾燥、まな板の消毒、食品の鮮度チェック等の実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門戸を開放し、施設的な外観を避けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通の家を想定し、逆に不必要な装飾はしていない。	○	施設的にならず季節感や安心できるインテリアを工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV周りや廊下の突き当たりに小さな椅子を置いたり、グループに分かれたり一人になれる空間を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望で家具やインテリアは家族がされている。相談を受けたり、落ち着かない様子がある方に於いては職員や家族で相談し本人の様子を見ながら昔から使用しているものを持ってきていただいている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコン・換気扇利用で対応している。温度計・湿度計も利用して空気の状態を管理している。利用者にも声を聞きながら清掃時には、窓を開放しほこり等にも気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	余裕のスペースの中で、集まってみたり一人の時間を持つたりと使い分けて手すり等も使い、外の空気に触れることの出来るテラスも利用されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分で出来る事は、やりやすく工夫して自信につなげている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	四季を感じていただいたり、作物の収穫の喜びと充実感を味わっていただきたく、季節の草花、野菜を植えなす、キュウリ、かぼちゃ、さつま芋と収穫し、お芋パーティを開催するなど楽しんでいただいている。		興味のある方は参加していただけるが、ない方についての誘い方を工夫して、何らかの楽しみを見つけて行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自分の棲家だという感覚を入居者の方が持ってくださいよう努力していきたい。地域においては、ご近所付き合いが普通出来るよう職員がワンクッションになり支援して